

考古学ってどんな学問か？

過去の真実を話しているわけではない→解釈によって事実は異なる。
先生と違う立場をとってもよい。

先生の考える考古学

「過去の人々の諸活動の物質的痕跡を手がかりにして人々の文化や社会を復元し、歴史を構築する学問」

では「物質的痕跡」とは・・・何？

・現在の物質的世界に残った人々の諸活動の痕跡—研究のポイントは現在にある！

⇒考古学は人類の誕生から現代まで、人類の歴史全体を対象とする。

昨日でも、数十秒前でも、物質的痕跡は残っている。何でもね。

最近では戦跡考古学なんてのも・・・かつて日本軍がどんな活動を行ったのか、どんな施設を作ったのか。古いところしかやらないのではなく、広く広くカバーする。

・現在の物質的世界は全て時間の経過の中で形成。—存在するものには全て過去があり、考古学はその物質的痕跡を見て研究する。

⇒考古学の研究対象は、いたるところに存在する。

例：月面に人間が踏み込んだ跡さえ後々に考古学の研究対象になるかもしれない。

* どうやって人々の文化や社会を復元するのか。

・我々の暮らす「モノ」の世界と、我々の「文化」や「社会」は密接に関係している。

「モノ」と我々の諸活動って深い関係がある。

⇒物質的痕跡を細かく観察してゆけば、当時の人々の「文化」や「社会」を推測し得る手がかりが得られる可能性がある。

◆ただ、「物質的痕跡」は非常に断片的。古い物質的痕跡は古ければ古いほど消える度合いが大きくなる。

*ただ、闇雲に細かく分析すればいいわけではない。（極力その「断片」を集めようとする努力は

必要)

・断片的な「物質的痕跡」をつなぎ合わせて、当時の「文化」や「社会」について考える、我々自身の存在が大きな意義を持つ。

コナン・ドイル「シャーロックホームズの思い出」

ホームズと兄マイクロフトの会話

「こっちに歩いてくるあの二人の男を見たまえ」

(中略)

「軍人上がりだと思うな」

「ごく最近に除隊になったばかりだね」

「インドで勤務していたのだ」

「そして下仕官だよ」

「砲兵だと思う」

……「それはあの男の日焼けした肌といい、威張った顔つきといい確かに軍人だが、ただの軍人ではない。」

「最近退役した証拠には、まだ給与靴を履いている。」

「防止を横にする癖があると見て、顔の白さが少し一方に偏っている。どうしても砲兵だ。一人で買物をしているから、細君をなくしたんだろう。」

こんな感じの推理。推測。

観察力、経験や知識＝この二人の差。

⇒人間の「文化」や「社会」に対する豊かな知識と経験を持った個人があつて、初めて可能となる。

◆時間を遡れば遡るほど細かな復元が難しくなる。

同じ文化であれば可能だが、違う文化だと、あるものを見たら違う行動を取るかもしれない。つまり、文化によって物質的痕跡の残し方まで違う場合がある。

大事なこと、それは日本の常識だけでなく、世界のさまざまな常識や知識や経験を蓄積しておくこと。

アメリカ、4022 年ミステリーホテル遺跡。ホテルの一室は祭壇と認識される。

テレビは主祭壇とか。バスルームには女性の死体があつたが、これは白いピカピカの棺と認識。トイレは流水で音楽を奏でる聖なるカメ。

* 証拠を繋いでゆく我々自身を見つめ直してみる。

・我々の知識や経験の中には、我々の世界観や常識、偏見などが含まれている。

⇒では、歴史は真実を明らかにするものではなく、我々が作るものなのか？

作るものならどうして必要なのか？

◎「歴史の研究」は現代社会と深く関係している。

・全国にある歴史系の博物館・資料館

その多くは我々の税金によって運営されている。

・開発や工事に伴う発掘調査は年間約1万件

発掘の費用は、通常開発や工事を行う側が負担。

発掘を行う公共・民間機関は数百に及ぶ。

・大学高校中学の「歴史」の研究者・教育者は数え切れないくらいたくさんいる。

⇒歴史学や考古学の研究に関わって、非常に大きなお金が動いている事実。

◎全ての人間の「文化」「社会」は歴史の産物

国家、地方公共団体、町内会などなど。慶應義塾大学、日吉キャンパスも歴史の産物。

過去というものが未来を規制してゆく・・・未来の先導は過去があるからこそできる。

⇒それぞれの「文化」、「社会」を理解するためには歴史の研究が不可欠。

* 国家や地方公共団体の取り組み

自分たちが、それぞれの「文化」、「社会」の担い手であることを認識することの大切さ。歴史をまとめ上げて共有することで、アイデンティティを成立させる。

⇒国や地方公共団体にとって歴史の研究は不可欠。* 先生は違う。笑

* 歴史的研究自体がなくなることはない考えるべき。

◎歴史研究が誤った方向に向かうのを矯正する研究

日本では日韓併合に関してとか、考古学研究の捏造とか

国や地方公共団体などは、歴史の研究を求める。アイデンティティの確立など明確目目的あり。しかし、それ故に誤った方向に向かうことがある。

⇒歴史の研究の誤りを矯正し得るのも歴史の研究。

◎歴史が「書き換えられる」ことの大切さ。

次から次へと新しい資料。見方を変えざるを得ない資料も出てくる。

・歴史は断片的な証拠を、自分たちが正しいと信じている理論や考え方、常識などを繋ぎ合わせて、事実のように見せているもの。

⇒新たな発見や異なった研究方法・理論の登場によって、常に書き換えられることになる。

* 歴史が書き換えられるときこそ、以前の歴史像を支えていた、我々の知識や経験などを見つめなおす必要がある。そのきっかけとして非常に重要。

アジア諸国の歴史認識の相違。事実に近い部分はあるが、それに対する見方が変わってくる背景には、積み重ねて形成してきた民族性や歴史観が存在するということを忘れてはならない。